

	項目	No.	課題	取り組むべき事項・方向性	備考	
地域 ケア 会議 の 結果 から 抽出 され た 地域 課題	複合的課題	12	本人・長女と夫・次女の思いが異なり、家族内の関係が悪く、関係機関へ苦情の電話を繰り返し入れる。	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携し課題を解決する。 地域住民から理解を得て、地域で支えるため、区長・民生委員・近隣住民とも協力する体制を築く 		
		20	介護認定のある両親と障がいのある妹を介護する姉も含めた本人及びその家族への支援。			
		21	統合失調症・強迫神経症の長男とその両親への支援。両親は別居を希望しているためその住まいの確保。経済的に余裕はなく、借金の整理も必要。長男への成年後見制度の活用も検討しつつ、地域で孤立した世帯となっているため、両親亡き後の長男への支援も必要である。			
		「我が事」ではなく、「他人事」	18	ごみ屋敷化しそうな家がある。本人達は、特に気にする様子もなく、近隣が迷惑していることに気づいていないが、庭にごみが散乱し、ハエがたかり、臭う。	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の気づきから、相談機関の周知 	
		認知症への理解と認知症対策	1	一人暮らしで認知症の疑いがあり、地域での見守りが必要。	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や企業に向けた認知症サポーター養成 認知症あんしん補償事業等の周知 認知症初期集中支援チームや認知症地域支援推進員との連携 	
	8		認知症の方で一人暮らしが困難な状況にある。			
	16		認知症の方のひとり歩き、地域での見守りが必要。			
		住民の交流、居場所が不十分	3	集いの場がない。（認知症予防、介護予防、閉じこもり予防のため）	<ul style="list-style-type: none"> 地域の居場所の設置 サロンを中心とした見守り体制の充実 様々な活動をしている方々のネットワーク化 サロン連絡会の開催 	
	6		ふれあい・いきいきサロンか認知症カフェの設立へ向けて。			
	13		コロナ禍におけるサロン参加者の減少、社会参加意欲の低下、他サロンとの情報共有。			
	17		酒浸りから生活意欲の低下、外出機会の減少。			
		相談体制の充実	23	幻聴、幻視等の精神疾患が疑われ親族や地域とは繋がりが薄い。	<ul style="list-style-type: none"> 気軽に相談できる場づくり 	
		家族介護者への支援	4	認知症の方の面倒を高齢の夫だけで見ているのは限界がある。	<ul style="list-style-type: none"> 家族介護者交流会など介護者の共通する悩みや相談する場の提供 	
	7		認知症の方の家族介護者が本人とは別居のため地域住民との関係が薄い。地域住民と家族介護者の関係性が良い状態とはいえ、本人、地域住民、家族介護者それぞれに良くない状態が続いている。			
		権利擁護制度の活用	5	家族支援が困難な認知症の方で理解力の低下や金銭管理ができない。	<ul style="list-style-type: none"> 権利擁護支援センターの活用や相談窓口の周知 	
	14		金銭管理ができない、返納などその他書類・手続申請等の代行者がいない。			
	22		一人暮らしで高次脳機能障害のある方の金銭管理、成年後見制度の活用及び、経済的自立が可能な住居の確保。			
		関係機関との情報共有	2	障がい福祉相談事業所、介護保険サービス事業所等の関係機関の情報共有。	<ul style="list-style-type: none"> 情報連携ツールとして、こまきつながるくん連絡帳の活用 広報等で制度の周知。ケアマネジャーなどには、勉強会等の集まる機会に地域資源の周知を図る必要がある。 	
	11		担当ケアマネジャーへの精神的支援、関係機関の情報共有。			
	15		成年後見制度の活用、関係機関の情報共有。			
19	経済的に苦しく就労支援が必要な方について関係機関の情報共有。					
	既存制度、サービスの充実化	9	高次脳機能障害のため、災害時に一人で避難できない。	<ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者台帳への登録 緊急通報装置など既存サービスの見直しや充実化 		
10		ひとり暮らし高齢者が利用できるサービスや制度の周知が足りない。				